

記 録

岡山県におけるタシロラン(ラン科)の初確認記録

公益財団法人 岡山県環境保全事業団 難波 靖司

New distribution records of *Epipogium roseum* (D. Don) Lindl. in Okayama Pref.

Yasushi NAMBA, Okayama Prefectural Environmental Conservation Foundation

ABSTRACT

Epipogium roseum (D. Don) Lindl. (Orchidaceae) was found in Bizen City, Okayama Prefecture, Japan where the species had not been recorded. This species has been known from neighboring Hyogo and Hiroshima prefectures and is designated as an endangered species.

記 録

岡山県におけるタシロラン(ラン科)の初確認記録

公益財団法人 岡山県環境保全事業団 難波 靖司

New distribution records of *Epipogium roseum* (D. Don) Lindl. in Okayama Pref.

Yasushi NAMBA, *Okayama Prefectural Environmental Conservation Foundation*

ABSTRACT

Epipogium roseum (D. Don) Lindl. (Orchidaceae) was found in Bizen City, Okayama Prefecture, Japan where the species had not been recorded. This species has been known from neighboring Hyogo and Hiroshima prefectures and is designated as an endangered species.

キーワード: タシロラン, 岡山県, 備前市, 初確認, 腐生植物

はじめに

2022年7月, 備前市の山林におけるタシロラン *Epipogium roseum* (D. Don) Lindl. の生育地情報を得た。

大橋ほか (2015) によると, タシロランは葉緑素を持たないので全体は黄白色, 暖温帯~熱帯の常緑樹林下に生え, 高さは20~50cm, 花期は5~7月で, 白色花をやや多数, 総状につける。和名は日本で最初に発見した田代善太郎の名を記念してつけられた。分布は本州 (関東以西)・四国・九州・琉球, 熱帯アフリカ・熱帯~亜熱帯アジア・オセアニアである。

本種の岡山県における確認記録は今まで無い (岡山県野生動植物調査検討会, 2022)。

隣県の確認状況としては, 兵庫県では神戸市, 多可町, 淡路市で記録があり, 兵庫県版レッドデータブック2020 (生物多様性ひょうご戦略推進委員会, 2020) に新記載され, カテゴリーはB (環境省の絶滅危惧 IB 類に相当) に指定されている。広島県では広島市, 呉市で記録があり, 広島県の絶滅のおそれのある野生生物 (第4版) (生物多様性広島戦略推進会議 希少生物分科会, 2022) のレッドデータカテゴリーは絶滅危惧Ⅱ類に指定されているが, 第3版 (2011) の絶滅危惧

I 類からはランクダウンされている。理由として, 全国的に新産地が報告されている点, 広島県内でも生育適地と思われる環境が増加している点が特記されている。

隣県では既に確認済の絶滅危惧種が, 岡山県内では初記録ということで興味深く思い, 現地へ赴き状況確認を行った。

確認状況

1. 確認地の概況

備前市は, 熊山 (山頂は隣接する赤磐市奥吉原) に代表されるように表層地質として流紋岩類の分布が多く (故光野千春先生遺作地質図作成プロジェクトチーム, 2008), 山容は急峻で岩角地が散見される。山斜面の広範にアカマツを主木とする森林が広がっており, 土地は全般的に痩せた印象を受ける。その一方で, 山麓部や谷筋に限っては広葉樹を主木とする発達した樹林も見られる。

タシロランの確認地は備前市の山林の一画にあり, 表層地質は流紋岩類で (故光野千春先生遺作地質図作成プロジェクトチーム, 2008), その周囲の山斜面はアベマキ, コナラを主木とした夏緑広葉樹林におおわれている。南に向けた日当たりの良い場所で, 林分にはアラカシ等の常緑広葉樹が混交している。確認地点そのものは山裾の平坦

地にあり、車道に面した林縁部でもある。樹林の葉群はよく発達しており、隣接道に向けてオーバーハングしているため、確認地点が直接日射を受けることはない。マント・ソデ群落の発達はなく、散乱光は入るものの、上空に張り出す葉群が厚いためか、確認地点及び周囲は比較的暗い。

林床には主にアベマキの落葉が厚く堆積しており、上空葉群からのもののみならず、車道から掃き寄せたものもそのまま堆積していると思われる。確認地点周囲の林床にはケネザサが疎らに生えている程度で、他の植物の混生はほぼない（写真1参照）。

2. 確認状況

タシロランの第一発見者は赤磐市在住の石井百合子氏で、発見日は2022年7月11日、2本の開花茎が立ち上がっている状況であったとのことである。氏から情報提供を得た筆者は、翌々日の7月13日に現地を訪れたが、花茎は2本とも根元付近で折れている状況であった。備前市一帯には7月12日にまとまった降雨があり（気象庁、2022a・2022b）、自重に耐えられなかった可能性もあるし、或いは隣接する車道から生育地点へは数歩という僅かな距離であるため、意図しない踏み込み等による影響も考えられなくはなかった。

倒伏した花茎は新鮮さを失いつつあったが、その場の落枝を支えに起こし、証拠写真（写真1～3参照）を撮影したのち、2本のうち1本を折れていた箇所から採取し標本とした。地下部と残りの1本の花茎は現地にそのまま残した。標本は後日、倉敷市立自然史博物館に寄贈した。

まとめ

タシロランは、一般には腐生植物（畔上ほか、2013）と呼ばれる。本種の菌根菌は落葉や朽木を分解するナヨタケ科の腐朽菌とされており（Yamato et al., 2005；Yagame et al., 2005）、こういった菌類があって生育が成り立つため、同所での発生は不安定になりやすく、結果的に希産な種となりやすい。このため発見当初は高い絶滅危惧カテゴリーに指定されやすいようであったが、

既に確認されている地域では確認情報は増加傾向にある場合も報告されている（横川、2022）。

燃料革命以降、日常の燃料源を森林に求めなくなった結果、自然遷移の進行と里山の衰退が見られるようになってきた。このことから、里山の種や草原性の種の減少を招いているが、一方では森林資源が持ち出されなくなり、山地は土地的に豊かになってきた。ニホンジカの食害による影響は別にしても、全般的に森林性の下層植物は豊富になってきている印象があり、タシロランの増加の背景も同様ではないかと考えられる。

瀬戸内海に面した山陽側は温暖少雨が特徴である（岡山地方気象台、1991）ことに加え、岡山県は隣県と比較すると低標高の地勢が内陸まで広がり、より少雨傾向が強い。保水性の低い花崗岩域の分布も広く、燃料革命以前は、より森林荒廃が顕著であった（千葉、1991）。また、風化層が粘土分に富む流紋岩地でさえ荒廃傾向にあった（波田、1990）。以上のようなことから、岡山県は、隣県に比べて里山の衰退や森林資源の回復が遅れてやっけてきていると考えられる。

狩山（2000）による発見から徐々に確認例が増えているホンゴウソウ（ホンゴウソウ科）（小橋、2005；山尾他、2008）の他、ヒナノシヤクジョウ（ヒナノシヤクジョウ科）は総社市の1箇所のみ示されている（岡山県野生動植物調査検討会、2020）。今回、タシロランが確認されたことで、このような腐生植物が注目され、調べが活発になることで、地方の生物情報の充実が進むことが期待される。

謝辞

今回の件で、赤磐市在住の石井百合子氏にタシロランの生育地情報について教えていただいた。見慣れない植物を見分ける眼力に感服するとともに篤くお礼を申し上げる。

引用文献

- 畔上能力ほか、2013. 山に咲く花 増補改訂新版. 株式会社 山と溪谷社. 東京.
千葉徳爾、1991. 増補改訂 はげ山の研究. 株式会社そしえて. 東京.

- 波田善夫, 1990. 郷土の森を理解するために (1. 山林火災を中心として). きびナチュラルリポートNo.2: 3—9.
- 環境省生物多様性センター, 1999—. 第6, 第7回 自然環境保全基礎調査植生調査, 植生図画像 [1/25,000:和気]. 環境省.
<http://gis.biodic.go.jp/webgis/files/vg67/jpg/523411.jpg> (2022年12月12日付けダウンロードファイル).
- 狩山俊悟, 2000. 岡山県初記録のホンゴウソウ. しぜんしくらしき, 32: 24.
- 気象庁, 2022a. 虫明地域気象観測所気象観測値 (2022年7月度の日降水量観測値).
https://www.data.jma.go.jp/obd/stats/etrn/view/daily_a1.php?prec_no=66&block_no=0668&year=2022&month=7&day=&view=p1 (2022年12月12日閲覧)
- 気象庁, 2022b. 和気地域気象観測所気象観測値 (2022年7月度の日降水量観測値).
https://www.data.jma.go.jp/obd/stats/etrn/view/daily_a1.php?prec_no=66&block_no=0664&year=2022&month=7&day=&view= (2022年12月12日閲覧)
- 小橋理絵子, 2005. 岡山県2ヶ所目のホンゴウソウ発見記. しぜんしくらしき, 52: 2.
- 故光野千春先生遺作地質図作成プロジェクトチーム (代表: 定金司郎), 2008. 岡山県内地質図 [1/50,000: 和気・播州赤穂]. 西部技術コンサルティング株式会社, 岡山.
- 大橋広好・門田裕一・邑田仁・米倉浩司・木原浩編, 2015. 改訂新版 日本の野生植物 I: ソテツ科〜カヤツリグサ科. 199. 平凡社, 東京.
- 岡山地方気象台, 1991. 岡山県の気象 (岡山地方気象台創立100周年記念). 財団法人日本気象協会関西本部.
- 岡山県野生動植物調査検討会, 2019. 岡山県野生生物目録2019 (33維管束植物). 岡山県環境文化部自然環境課. 岡山県. (掲載バージョン「Ver1-3」 2022年6月14日更新ファイル).
- 岡山県野生動植物調査検討会, 2020. 岡山県版レッドデータブック 2020植物編. 29—326. 岡山県環境文化部自然環境課. 岡山県. (2022年6月14日更新ファイル).
- 生物多様性広島戦略推進会議 希少生物分科会, 2022. 広島県の絶滅のおそれのある野生生物 (第4版) —レッドデータブックひろしま 2021— (種子植物). 広島県環境県民局自然環境課. 広島県.
<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/uploaded/attachment/478958.pdf> (2022年3月31日掲載ファイル)
- 生物多様性ひょうご戦略推進委員会, 2020. 兵庫県版レッドデータブック2020 (植物・植物群落). 兵庫県環境部自然・鳥獣共生課. 兵庫県.
https://www.kankyo.pref.hyogo.lg.jp/application/files/1715/8891/0485/1_hishi_HP_197_Tashiroran.pdf (2022年12月12日付けダウンロードファイル).
- Yagame, T., Fukiharu, T., Yamato, M., Suzuki, A. and Iwase, K. 2008. Identification of a mycorrhizal fungus in *Epipogium roseum* (Orchidaceae) from morphological characteristics of basidiomata. *Mycoscience* 49 (2) : 147—151.
- 山尾僚・波田善夫, 2008. 岡山県岡山市で発見されたホンゴウソウ (ホンゴウソウ科). *Naturalistae*第12号: 41—43.
- Yamato, M., Yagame, T. and Suzuki, A. 2005. Isolation and identification of mycorrhizal fungi associating with an achlorophyllous plant, *Epipogium roseum* (Orchidaceae) *Mycoscience* 46 (2) : 73—77.
- 横川昌史, 2022. 大阪府におけるタシロランの記録と生育環境. 大阪市立自然史博物館研究報告 (76) : 143—147. 大阪市立自然史博物館. 大阪.



写真1. タシロラン

高さ 20~30cm の 2 本の花茎が確認された。花は 1 花茎につき 10 数個ついている。下部から順に開花しており、古いものから結実し子房が褐色みを帯びてきている。頂部のものが最も新鮮で白色を帯びているが、花はあまり開いていなかった。



写真2. タシロラン

花の上側に線状被針形の側花弁と顎片が並ぶが区別が付きにくい。下側の唇弁は広卵形で紅紫色の斑点があり、縁は不規則な鋸歯状になっているように見える。



写真3. タシロラン

頂部の比較的新鮮な花で、下側の唇弁には紅紫色の斑点が見える。またその付け根から子房側に向けて距が突き出ている。子房には明瞭な脈が見える。